

平成31年度中のリニューアルオープンに向けて推進中！

京都市美術館再整備事業の進捗について

京都市では、平成25年に創立80周年を迎えた京都市美術館を、今後とも国内外の多くの人々を魅了する美術館としていくため、平成27年3月に「京都市美術館再整備基本計画」を策定し、平成31年度中のリニューアルオープンに向けて再整備を進めています。

美術館再整備事業の取組・進捗状況について下記のとおりお知らせします。

記

1 再整備工事の現状・今後の予定

- (1) 京都市では、美術館再整備事業の実施にあたり、創設以来80年の長きにわたり、我が国の文化芸術を牽引してきた京都市美術館を、将来にわたり、市民に愛され世界に誇れる美術館としていくため、市民の皆様の税金による負担を軽減しつつ、必要な財源確保ができるよう、ネーミングライツ制度を導入することとし、趣旨に賛同・応募いただいた京セラ株式会社と平成29年2月に「京都市美術館ネーミングライツに関する契約書」を締結いたしました。
- (2) 平成30年1月の起工式・本工事着工以降、順調に工事を進めており、本年9月には、工事現場市民見学ツアーを開催（ICOM KYOTOTO2019 プレイベント）いたしました。施工中しか見られない工事現場の見学には多くの方が参加され、長年市民の皆様や来館者に愛されてきた建物を大切に保存しながら、新たな機能・魅力向上を図る再整備に向けた状況を御覧いただきました。
- (3) 今後は、平成31年10月末に建物が竣工し、開館準備に入ります。そして、平成31年度中にリニューアルオープンする予定です。

再整備後の美術館は、市民の皆様や来館者に長年親しまれてきた本館外観はしっかり保存しつつ、展示環境を充実するとともに、現代アートを中心とする新館のほか、ロビー、カフェ・ショップ等の新たな魅力を備えた美術館として「京都市京セラ美術館」の愛称で、京都の魅力及び日本文化を発信し、国内外の人々を魅了する拠点としての役割を果たしてまいります。

工事現場市民見学ツアー（平成30年9月15日開催）の様子



2 京都市美術館 美術品収集方針の策定と寄付・寄贈について

～日本文化の創造と継承の中心である「京都の美」の充実を図ります～

- (1) 再整備により現代アートを中心とする新館が誕生するとともに、常設展示を新設することを契機として、より一層コレクション（収蔵美術品）の充実を図るため、京都市美術館協議会からの答申を踏まえ、別紙1のとおり「京都市美術館 美術品収集方針」を策定いたしました。
- (2) 新たな収集方針では、
 - 1 既存のコレクションを継承しながら、その源流となる江戸期の美術に遡って収集すること
 - 2 現代の美術において新たな展開を見せる作家にも注目して収集すること
 - 3 近代以降の京都の美術に関連する国内外の作家にも着目することなどに眼目を置いており、今後、この方針に従って、京都における近代以降の美術を展望できる総合的なコレクションを世界的な視野に立って形成するため、積極的に収集活動を展開してまいります。
- (3) 現在、3,498点を数える京都市美術館のコレクションは、約8割を寄贈作品が占めているなど、多くの方々の御支援に支えられてまいりました。
「大切にしてきた美術品を美術館に寄贈して、多くの方に楽しんでほしい」という御寄贈の御相談をいただいた場合には、美術館学芸員が調査にお伺いします。
- (4) また、現金での御寄付は税控除の対象となります。収蔵作品の充実に向けて、皆様の御支援をお願いいたします。

引き続き、市民の皆様と共に京都で生み出された貴重な美術品を将来に引き継いでいく取組を進めてまいります。

【代表的収蔵作品】



竹内栖鳳「絵になる最初」(大正2年)
＜重要文化財指定＞

【参考 寄付金実績】

年度	総額	寄付者の内訳
平成26年度	20,000,000円	個人1名
平成27年度	12,500,000円	個人2名 団体等1名
平成28年度	1,726,760円	個人1名 団体等1名
平成29年度	5,002,000円	個人2名

3 新美術館のロゴデザインについて

～再整備後の愛称「京都市京セラ美術館」のロゴデザインが決まりました！～

新たな愛称である「京都市京セラ美術館」については、平成31年春以降、順次、観光案内標識・道路標識、各種マップ・パンフレット等において使用を開始し、市民の皆様に親しんでいただき、円滑にリニューアルオープンを迎えることのできるよう取り組んでまいります。

<ロゴデザイン>



<ロゴデザインの考え方>

- ・ 日本語と英語のロゴを印象の近いモダンなタイポグラフィで一体的に構成し、京都のグローバル感や洗練さを表現しています。
- ・ 個性を主張しすぎないシンプルなロゴで美術館の品格を伝えるとともに、文字の一部に輝きを表すスリットを加え、印象に残るデザインとしました。
- ・ ロゴのカラーは、創造の原点となる無彩色の京墨としています。

※ロゴデザイナー 杉崎真之助氏（真之助デザイン代表・クリエイティブディレクター。ニューヨークADC特別賞（アメリカ）、レッドドットデザイン賞（ドイツ）、グッドデザインアワード（日本）など内外の数々のデザイン賞を受賞。）

4 文化・芸術や京都の魅力に触れ、学び・楽しめる情報発信コーナーについて

～美術館の歴史的・文化財価値と世界的な芸術家・科学者の功績を発信！～

- (1) 再整備により展示機能を強化し、新しく生まれ変わる京都市美術館では、中央ホール東西の東広間と西広間、新館ロビー等の来館者の目に触れやすい空間を活用して、展覧会スケジュールをはじめ様々な文化・芸術情報や京都の魅力を発信する情報発信コーナーを整備します。
- (2) このうち、東広間では、京都市美術館ネーミングライツパートナー企業である京セラ株式会社との共同の取組として、京都の名の下に人類に対する貢献を称える国際的顕彰事業「京都賞」を取り上げ、来館者の皆様に世界の文化首都「京都」の魅力を発信してまいります。
- (3) また、西広間では、美術館の80年の歴史を振り返るコーナーや、竣工当初から残る貴重な建築部材等を展示するスペースなど、京都市美術館の文化財的価値を身近に感じてもらえる場も設置します。

京都市美術館の様々な空間を積極的に活用しながら、市民の皆様をはじめ世界中からの観光客にとって魅力ある情報発信の取組を進めてまいります。

※情報発信コーナーの配置場所は別紙2を参照

【参考】愛称及び各施設通称の多言語表記

愛称	日本語	英語	中国語（簡体字）	韓国語
各施設通称	京都市京セラ美術館	Kyoto City KYOCERA Museum of Art	京都市京瓷美术馆	교토시 교세라 미술관
	本館（北回廊）	Main Building (North Wing)	本館（北回廊）	본관（북쪽 회랑）
	本館（南回廊）	Main Building (South Wing)	本館（南回廊）	본관（남쪽 회랑）
	旧大展示室	Central Hall	中央大厅	중앙 홀
	北中庭	Atrium	光之厅	빛의 공간
	南中庭	Sky Courtyard	天之中庭	하늘 안뜰
新館	東山キューブ	Higashiyama Cube	东山立方	히가시야마 큐브
スロープ広場	京セラスクエア	KYOCERA Square	京瓷广场	교세라 스퀘어
日本庭園	日本庭園	Japanese Garden	日本庭園	일본정원
付属棟	おうちいかん 桜水館	Ohsui House	櫻水館	오스이관

